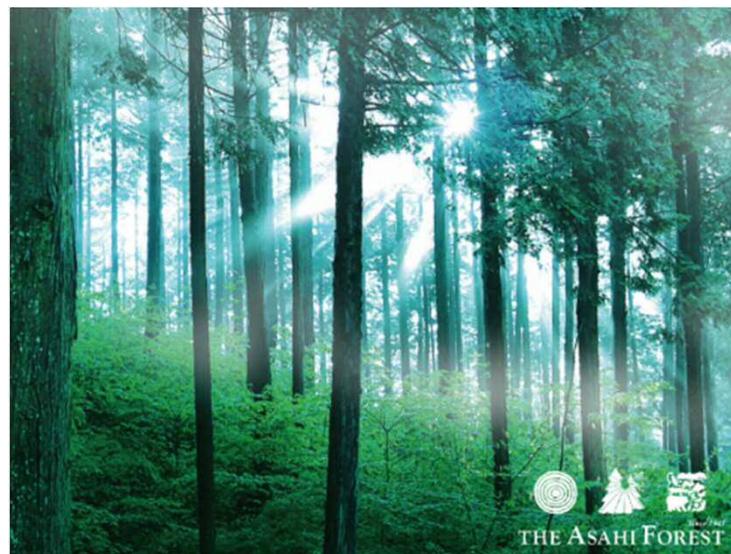


Asahi

社有林「アサヒの森」の取組み



2022年11月
アサヒグループホールディングス(株)
Sustainability

「アサヒの森」 基本方針

【森を守る】アサヒの森の生物多様性の保全を目指します



【森と共創する】アサヒの森と一緒に活動します



【森を活かす】アサヒの森の恵みを活かし、利用します



「アサヒの森」 概要

- 1941年、輸入コルクが第二次大戦の影響で途絶えることがないよう、アベマキの樹皮を代用品として確保するために山林を購入し、昨年で80年。

所有面積は2,165ヘクタール(東京ドーム461個分に相当)

■広島県庄原市と三次市に点在する15の山



責任ある林業と間伐材利用

- 「アサヒの森」は、木材サプライチェーンの上流を担う。苗を植え、木を育て、木を伐り、また植えるサイクル。
- 収穫されたヒノキやスギは、地元の原木市場や製材工場に出荷。建築資材等に加工され市場に流通。
- 間伐材はさまざまな用途で利用しており、新国立競技場にも使用。

■責任ある林業



■間伐材の利用



間伐材を利用した「アサヒの森 甲野村山フォレストハウス」



アサヒグループの大阪グループシェアオフィスインフィルプースのパーテーション



出荷される原木



アサヒグループ研究開発センター カフェテリアの天板



生物多様性のモニタリング調査

- 森林生態系に関するモニタリング調査を2002年・2009年、2010年～2012年に実施。以降、適正な森林管理の証として、植物・動物のモニタリングを継続。

■生物多様性レポート

文献資料調査 動物調査 植物調査

植物 668種 鳥類 60種

観察された植物例



ミツマタ ヤマホトトギス タマゴタケ ヤマアジサイ ツルリンドウ

観察された生きもの例



ヤマガラ カケス カスミサンショウウオ ツキノワグマ ノウサギ

枝打ちや間伐などが適切に行われているため、多様な鳥類が生息しているのだろう



山岸 哲 先生

大阪市立大学名誉教授、兵庫県立コウノトリの郷公園名誉園長、山階鳥類研究所元所長、新潟大学朱鷺・自然再生学研究中心元センター長

■環境DNA調査(2021年)、 実地調査(2022年) オオサンショウウオの発見



■定点カメラデータ分析(2022年)



「自然資本としての価値」の定量化

- 森林は木材供給、CO2吸収、土壌流出防止などの「生態系サービス」を提供する自然資本。
- 外部専門家による評価において、「アサヒの森」の自然資本としての価値の定量化を実施。

潜熱効果



物理量：997万m³(蒸散)
備考：100km²の範囲を
2°C低下させる

CO₂吸収



物理量：12,200トン
備考：工場排出の6.2%

大気浄化



物理量：SO₂ 184kg
NO₂ 992kg
備考：工場排出の4.3%
工場排出の1.0%

水質浄化



物理量：窒素 69トン リン1.0トン

土壌流出防止



物理量：9.2万トン



※『生物多様性及び生態系サービスの総合評価報告書』(環境省、2016年)に準拠して評価

30by30アライアンス、「自然共生サイト(仮称)」への参加

- 「30by30アライアンス」にアサヒグループとして賛同。
- 環境省実証事業(2022年度試行前期)において、「アサヒの森」の15の山の一つである甲野村山が「自然共生サイト(仮称)」の認定相当に選定。



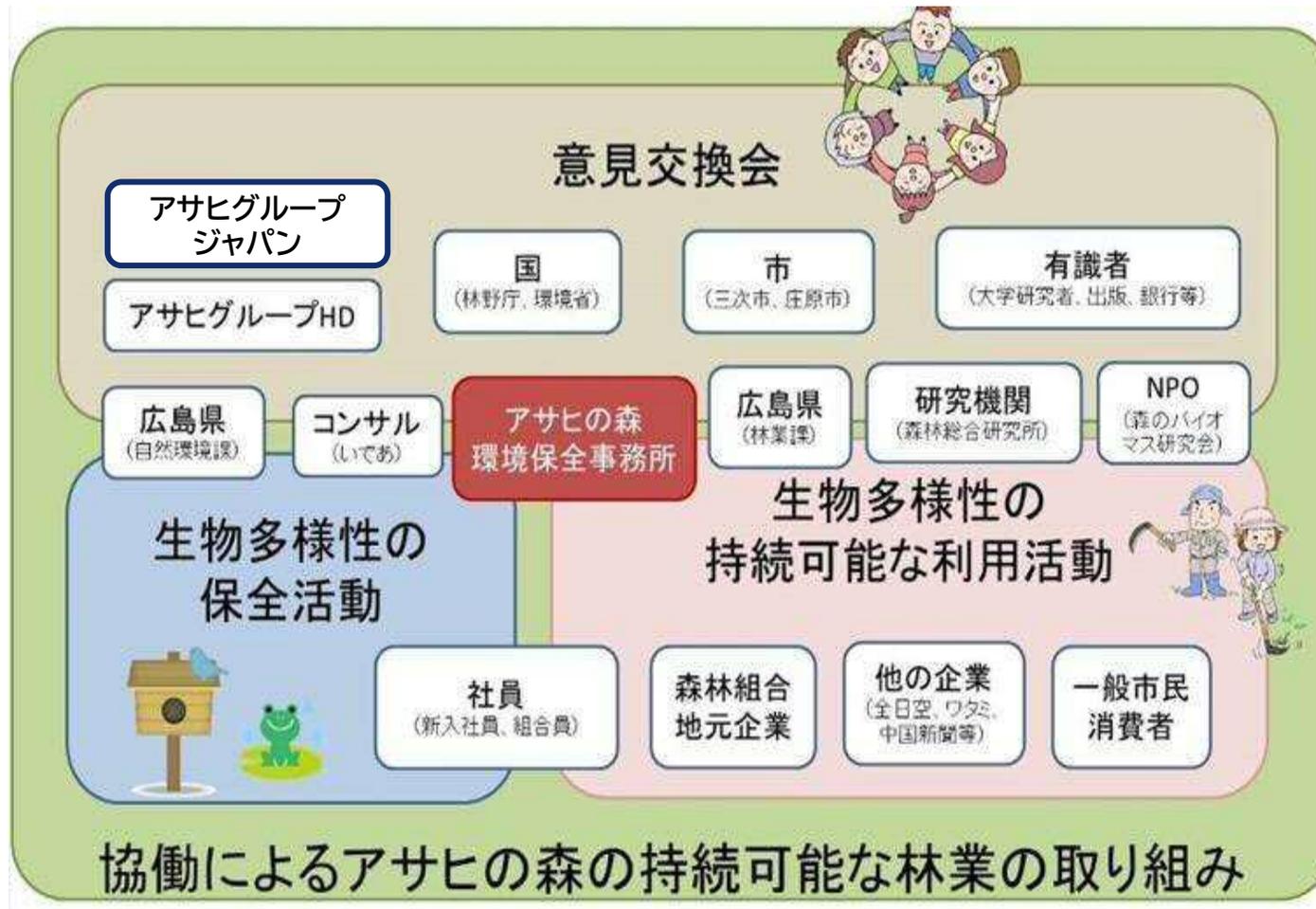
【生物多様性の価値(概要)】

- ✓ 主にスギ・ヒノキ植林地、自然林(コナラ林)から成る森林。隣接して水田が存在し、里山的景観を形成。
 - ✓ 多様な環境に希少種を含む多くの在来種が生育・生息。スギ・ヒノキ植林地は列状間伐等の管理の実施により下層植生が発達し、森林環境が健全に保たれている。
 - ✓ 木材供給(供給サービス)、水源涵養、温室効果ガスの吸収(調整サービス)、環境教育(文化的サービス)。
 - ✓ 調査で植物274種、鳥類40種が確認。希少種のサシバ、ヤマドリ、ブッポウソウ、オオアカゲラ、サンコウチョウ(鳥類)、ゴギ(魚類)、オオサンショウウオ(両生類)などの生息を確認。
- 責任ある森林管理と生物多様性の保全に取り組む「アサヒの森」でのOECMの認証取得を目指す。



ステークホルダーとの協働体制

- 様々なステークホルダーとの協働により、「アサヒの森」の持続可能な林業と生物多様性の保全に取り組む。



有識者による意見交換会

- 2014年以降、有識者による意見交換会を毎年開催し、豊かな森づくりのアクションプランへ反映し、実行。



■2022年「アサヒの森」意見交換会

【有識者】

香坂 玲 東京大学院農学生命科学研究科 教授
 深町 加津枝 京都大学地球環境学堂地球親和技術学廊 准教授
 高川 晋一氏 (公財)日本自然保護協会OECMタスクフォース
 小林 誠 環境省自然環境局自然環境計画課 課長補佐

■意見交換会 開催実績

年月	テーマ
2014年7月	アサヒの森 生物多様性の保全基本方針策定
2015年7月	生態系サービスの定量化の試み
2016年10月	森林資源の利活用、地域との協働
2017年10月	協働による課題解決のためにできること
2018年11月	森林の自然資本としての価値の定量化・活用に関する意見交換会 ～地球温暖化へ対応するための社有林の評価と活用～
2019年10月	アサヒグループ環境ビジョン2050/ウォーターニュートラルに向けた取組み
2021年11月	アサヒの森の80年とこれから
2022年11月	自然共生サイトのモニタリングのあり方、企業価値向上に向けた活動

学びの場の実施／地域との関わり

- 2006年以降、地元の小学校や大学と連携。
- 2022年は庄原市主催の地元小学生向け森林環境教育の場としてフィールド、施設、素材等の提供。

対象	● 小学生
メニュー名	● アサヒの森散策
場所	● 座学：森林体験交流施設 ● 活動：アサヒの森
ねらい	● 森、水、虫などを観察し関係性を学ぶことで、森林の理解を深める
アサヒの森での実施内容	● 自然観察 ● 林業の説明、林業地の観察 ● 林業体験：のこぎりによる間伐材の丸太切り、なたによる薪割り

自然観察	林業体験				
					<p>庄原市の生徒が切り取った間伐材の円板</p>

学びの場の実施／地域との関わり

- これまでに地元の子どもを対象とした「アサヒ森の子塾」、「森と水の学習会」、「スノーシュー体験＆雪遊び親子ツアー」を実施した。



広島市立大学との共創

- 広島市立大学デザイン工芸学部の学生との共創ゼミを開設。
 - ✓ 期間: 2022年5月~10月
 - ✓ 目的: 森林課題に関心を持つ人を増やし、森の恵みを次世代に繋ぐ仲間を増やす
 - ✓ 形式: 講義やグループワーク、「アサヒの森」での森林体験等
 - ✓ 方法: 森林・林業の現状や課題を理解し、より多くの生活者が森林の重要性や課題に関心を持つきっかけとなるプロダクト・デザインの開発アイデアを提案する
例) 生活に溶け込む間伐材を利用したプロダクト、森林課題を伝えるデザインや映像開発等



講義風景①

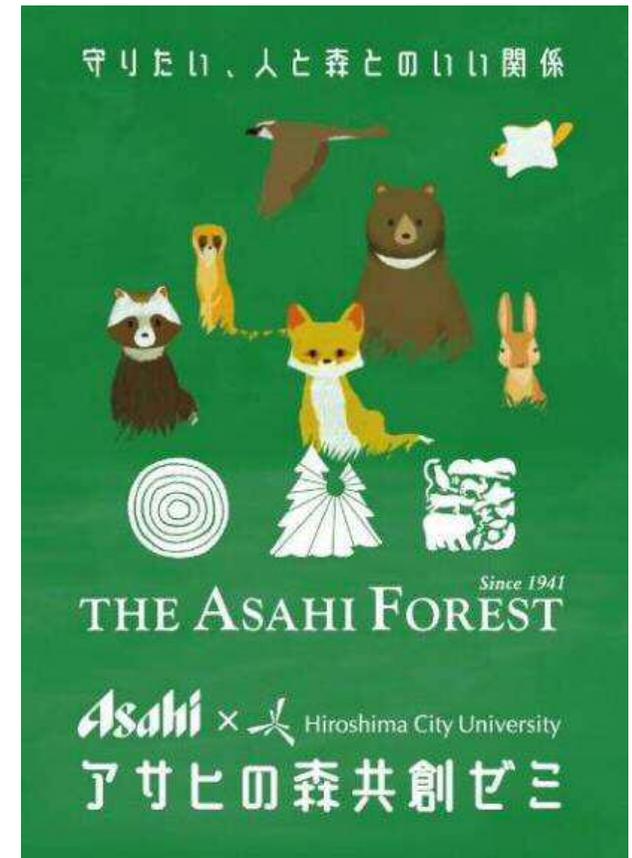


講義風景②



講義風景③

出典:広島市立大学のウェブサイト



広島市立大学との共創

- 10月15・16日、講義や体験を通じて発見した森の課題に基づき創作活動した作品を展示。

■学生の作品

No	作品タイトル
1	五感で感じるアサヒの森
2	アサヒの森の木のお守り
3	森のChess
4	森の物語
5	カブボム
6	私の願いをもう一度叶えてくれませんか
7	shisui
8	コスメティックLeset



森の研究室 入口から



納島教授・アサヒグループ南雲様・無印良品山口様で行ったトークショー



アサヒグループジャパン浜田社長の視察



発表会最終日の記念撮影

出典:広島市立大学のウェブサイト

社員の環境啓発／巻き込み

- 中四国オフィスの社員に対し「地元にある社有林」の理解促進に向けて「アサヒの森」研修を集中的に実施。
- 新入社員・転入社員を中心にグループ横断で、2022年は3回実施し、2023年は4回実施予定。

①新入社員向け研修

日時:7月29日(金)
人数:7名

②転入社員向け研修

日時:9月14日(水)
人数:16名

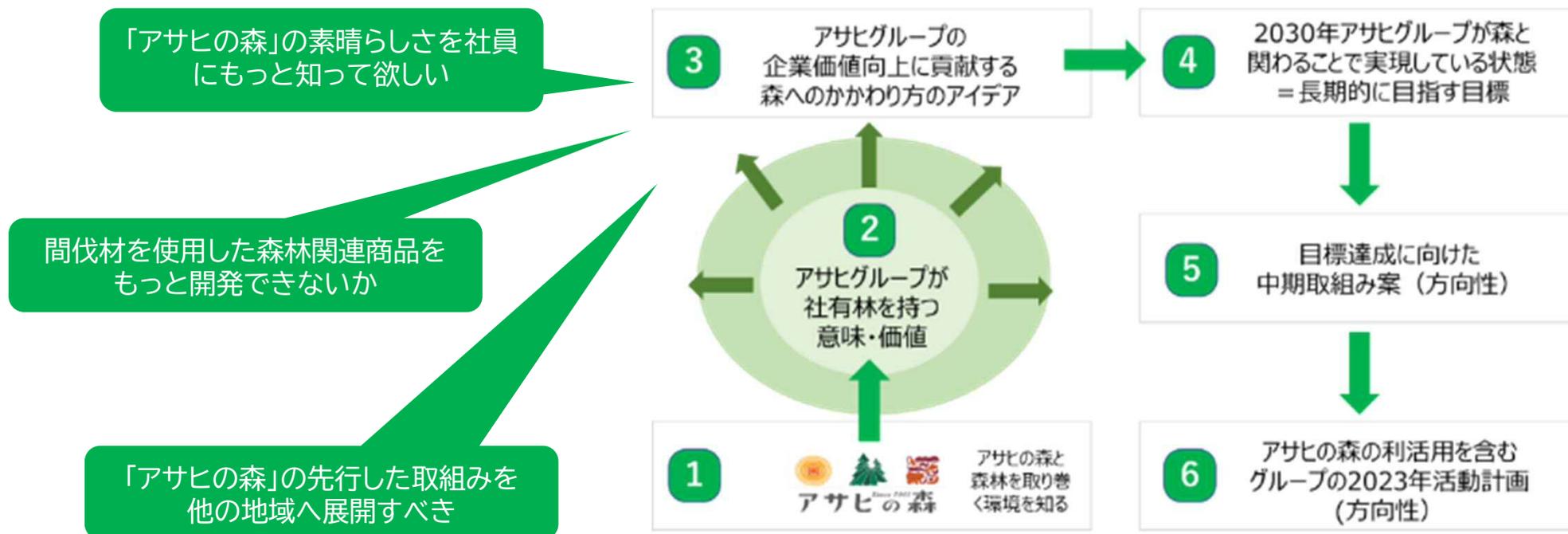
③社員向け研修

日時:10月1日(土)
人数:18名



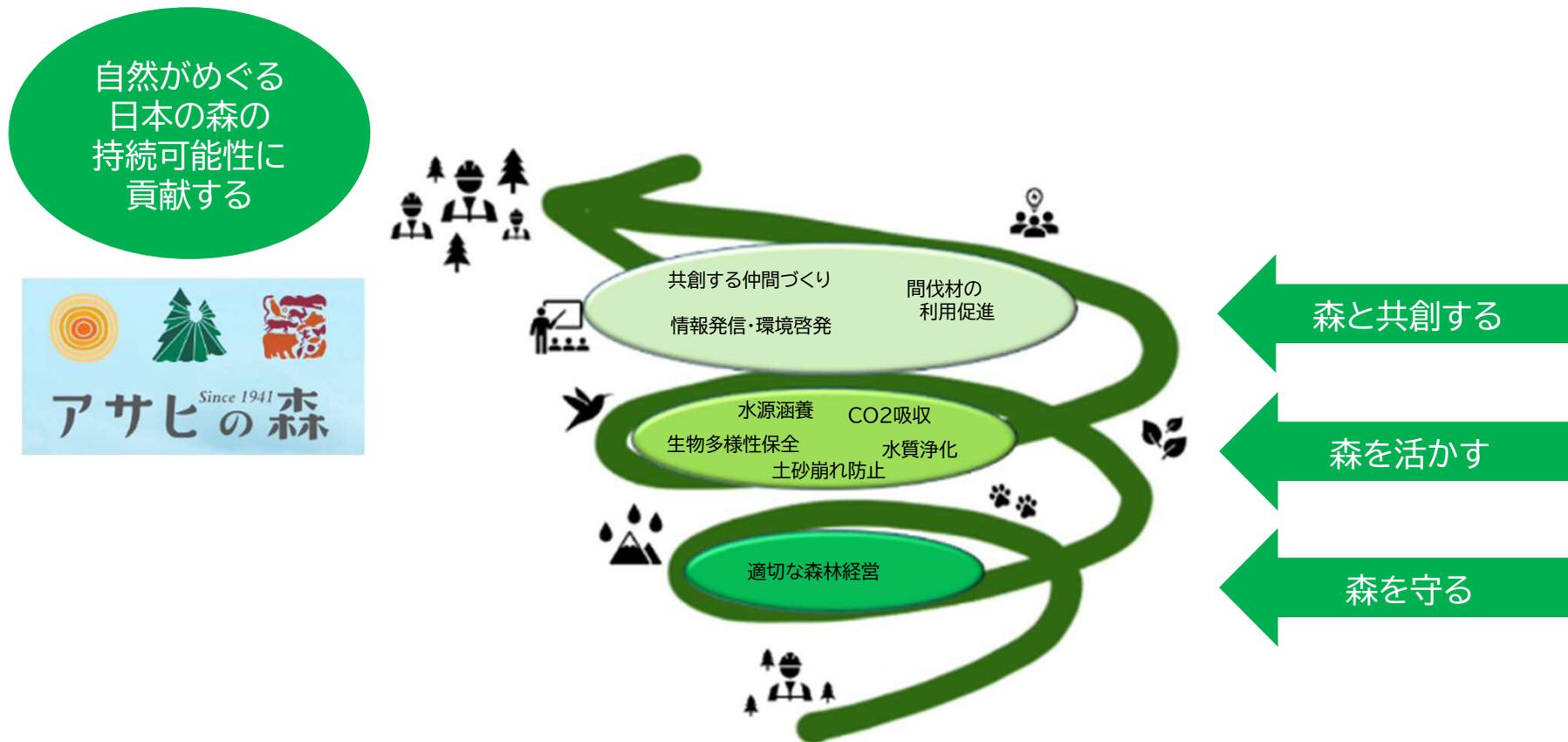
社員の環境啓発／巻き込み

- 2022年3～6月、「アサヒの森」を起点に、企業価値向上に貢献するアサヒグループと森のかかわり方を検討する社内ワークショップを計7回開催。
- ワークショップの内容をベースに、2023年の活動計画を検討中。



2030年にむけた「アサヒの森」

- 自然の恵みを享受して事業を行う企業グループだからこそ、日本の森で自然の循環を創り出す。
- 本業や企業価値向上に結びつく活動にする。





Asahi
その森を、わが家。